

藤家委員長代理の米国出張について

平成11年4月20日

1. 期 間：平成11年4月6日(火)～15日(木)

2. 場 所：シカゴ、ニューヨーク、ワシントン

3. スケジュール及び出張者：別添参照

4. 概要

21世紀に向けた日本の原子力政策と日米原子力協力の在り方について意見交換を行うため、アルゴンヌ国立研究所訪問及びブルックヘブン国立研究所訪問並びにワシントンDCにおいて、要人との会談を行った。

5. 結果

(1) アルゴンヌ国立研究所 (ANL)

① ANLからの説明

- ・ ANLが取り組んできたIFR (INTEGRATED FAST REACTOR、金属燃料を高速炉で燃焼し、乾式再処理を行う統合システム。1994年に計画を中断。)
- ・ INSP (INTERNATIONAL NUCLEAR SAFETY PROGRAM、米とロシア、リトアニア、カザフスタンが協力して行っている、旧ソ連型原子炉の安全性改善のためのプロジェクト)
- ・ 軽水炉におけるPu酸化物燃料の非定常状態特性の研究
- ・ Pu酸化物を燃料とした鉛冷却炉の研究

② JNCからの説明

- 以下についての協力の可能性を提案
- ・ 核拡散抵抗性の高い原子力科学技術
- ・ 高効率、低コスト、高安全性を有する原子炉開発
- ・ 低レベル及び高レベル放射性廃棄物の処分

(2) ブルックヘブン国立研究所 (BNL)

・ RHIC

物質形成の謎解明などの研究に利用する予定のRHIC (重イオン衝突型加速器。一周3.8km、建設費約720億円。)及び当該施設に付設する装置(理研との研究協力により付設)について視察及び意見交換

・ NSLS

物質構造の解明などの研究に利用しているNSLS (NATIONAL SYNCHROTRON LIGHT SOURCE、シンクロトロン放射光装置。6つのビームラインを有し、研究メンバーは170人)について視察及び意見交換

(3) 米國エネルギー省 (DOE) グロッシア副長官

①日本側の説明

日本側から、訪米の目的、及びJNC、放医研、原研、理研からの協力の可能性のある研究分野についての説明。また、日米の研究者交流の重要性を指摘。

②DOEの説明

- ・原子力を将来とも重要なオプションとして維持する方針であり、研究開発を継続することとしている。日本との協力を段階的に強化していくことを希望。研究交流の重要性についても、日本と同意見。
- ・大学、研究所、産業界から公募によりブレイクスルーを目的とした研究課題を募るNERIを開始。NERIでは国際協力を図る予定で、ワークショップ開催も予定。
- ・放射性廃棄物処分技術、加速器による放射性核種の消滅、加速器の医療分野への応用に興味あり。

(4) セイモアNSC特別補佐官

セイモアNSC特別補佐官から、露の余剰兵器プルトニウム処分の重要性、そのための我が国のJNCによる露との技術協力を歓迎すること、余剰兵器プルトニウム処分についてはサミットでG8が協力して取り組むことを示すべきであることなどの発言があった。

(5) 元DOE副長官マーチン氏主催昼食会

・ジャクソンNRC委員長

原子力に関する日米関係は良好と認識。日米協力の可能性のある分野は、核種消滅、原子炉の老朽化対策、余剰兵器プルトニウム処分などではないか。

・セリン元NRC委員長、ビスコンティDOE特別顧問

PAの重要性を指摘。

・バレットDOE民生放射性廃棄物管理局長

放射性廃棄物処分について技術的側面、経済性、PAの重要性を指摘

・ホルゲートDOE核分裂性物質処分局長、ドメニチ議員秘書ライオン氏

露の余剰兵器プルトニウム処分の重要性の指摘、及び本分野での日本の技術的協力の評価

・ラッシュDOE国際原子力安全協力局長

日米の研究交流の重要性を指摘

・ストラトフォードDOS原子力部長

核不拡散の重要性を指摘

(6) 外交評議会

・藤家委員長代理より21世紀における原子力の研究開発利用に関する理念について説明

・エド・アーサー (ロスアラモス研究所)

一開発途上国のエネルギー需要の拡大及び地球温暖化防止のため原子力の重要性が、今後増大

- －ゼロ・リリース、フルリサイクルを理想として原子力研究開発利用に取り組むことの重要性
- －保障措置、核拡散抵抗性の高い原子力技術の開発の重要性
- －放射性廃棄物の長期管理の重要性

(7) ホラムDOS次官

露の余剰兵器プルトニウム処分の重要性の指摘、及び本分野での日本の技術的協力の評価

(8) ドメニチ上院議員

露の余剰兵器プルトニウム処分の重要性の指摘、及び本分野での日本の技術的協力の評価

藤家委員長代理訪米スケジュール

4月6日(火)

成田 発
シカゴ着

4月7日(水)

アルゴンヌ国立研究所で会談及び視察
シカゴ発
ニューヨーク着

4月8日(木)

ブルックヘブン国立研究所視察

4月9日(金)

ニューヨーク発
ワシントン着
グロッシアーDOE副長官との会談
セイモアNSC特別補佐官との会談

4月12日(月)

マーチン氏(元DOE副長官)主催昼食会
マグウッドDOE原子力科学技術局長との会談
外交評議会

4月13日(火)

ホラムDOS次官との会談
在華邦人プレスとの懇談
ドメニチ上院議員への表敬
ライオン氏(ドメニチ議員秘書)との会談

4月14日(水)

ワシントン発

4月15日(木)

成田着

藤家委員長代理訪米メンバー

藤家 洋一 原子力委員会委員長代理

相澤 清人 核燃料サイクル開発機構理事

可児 吉男 核燃料サイクル開発機構もんじゅ建設所改革推進グループリーダー

棚田 修二 放射線医学総合研究所高度診断機能研究ステーション総合研究官

斎藤 伸三 日本原子力研究所理事

大道 英樹 日本原子力研究所ワシントン事務所長

坂内富士男 理化学研究所理事

石原 正泰 理化学研究所放射線研究室主任研究員

竹内 英 科学技術庁原子力局国際協力・保障措置課係長